

循環器内科

1. スタッフ

科長（兼）教授 坂田 泰史

その他、教授 6 名、准教授 8 名、講師 4 名、助教 21 名、研究員 7 名、医員 14 名、技術補佐員 3 名、病棟事務補佐員 2 名

（兼任を含む。また、教授、准教授、講師、助教及び研究員は特任、寄附講座を含む。）

2. 診療内容

当科は我が国を代表する循環器疾患治療施設として、あらゆる循環器疾患の中でも特に難治性疾患を対象に先進的医療を推進する体制を整えている。さらに、大学院医学系研究科で行われている国際的レベルの基礎医学研究を基盤に、新しい診断・治療の開発にも精力的に取り組んでいる。狭心症・心筋梗塞などの冠動脈疾患はもとより心筋症、心臓弁膜症、不整脈、肺高血圧症などあらゆる循環器疾患を対象に、充実した診療設備を統合的に利用することにより、的確な診断・最適な治療を心がけている。

本院は臓器移植法の施行後、本邦初の心臓移植を行った施設である。以来、心臓移植施設として移植前の評価、移植後の管理などを行う一方、心臓血管外科と協力して心臓移植適応検討会を定期的に（月 1 回）開催し、大阪地区のみならず全国的規模で重症心不全による心臓移植待機患者の登録業務を行っている。平成 19 年 4 月からは心臓血管外科とともにハートセンターを設立し、内科・外科の垣根をなくした一体化運営を行っている。

平成 24 年度に開設された CCU（循環器疾患集中治療室）は、6 床へ増床され、平成 29 年 1 月からは HCU として高度救命救急センター・ICU と連携の上、多くの緊急症例、重症症例患者を収容している。

冠動脈疾患に関しては最新の画像診断技術を駆使し難治性冠動脈疾患の治療に対応している。高度救命救急センターと連携して急性心筋梗塞や不安定狭心症などの急性冠症候群の症例も積極的に受け入れており、24 時間体制にて緊急心臓カテーテル検査・冠動脈造影検査を施行し、必要に応じて、ステント留置などを含めた経皮的血管形成術（PCI）を行っている。心不全診療においては日本の循環器疾患治療における『最後の砦』としての責任を果たすべく最適な内科治療の実践に努めている。特に画像診断を駆使した拡張型心筋症の鑑別診断、予後予測に力を入れている。また内科治療抵抗性の重症心不全については、心臓血

管外科と合同回診、合同カンファレンスを行い、非薬物治療や補助循環装置の植え込みなども行っている。頻脈性不整脈の症例に対しては、心臓カテーテル検査、電気生理学的検査を施行。根治をめざし電氣的焼灼術（アブレーション）治療を該当症例には積極的に行っている。また、ペースメーカーリード抜去の施設認定を得て、多くの患者紹介を受けている。心臓の構造的異常、弁機能の異常に対して、カテーテルを用いた治療に取り組んでいる。大動脈弁狭窄症に対する経カテーテル的大動脈弁植込み術（TAVI）に加え、僧帽弁逆流症に対するカテーテル治療（MitralClip）も開始した。心臓移植後、成人先天性心疾患に関しても専門外来を設置するなど外来・入院診療を行っている。

さらに近隣医療機関との連携を深めるため、平成 17 年 2 月より、地域医療機関医師から循環器専門医に 24 時間電話が直接繋がり、診療を相談するホットライン窓口（ハートコール）を開設した。このハートコールは院内における循環器領域が関わる患者急変にも積極的に対応している。

3. 診療体制

(1) 外来診察スケジュール

月～金。受付時間は午前 8 時 30 分～11 時 00 分、午後は原則として再診患者または病診連携による紹介患者を診察している。毎日午後に虚血外来を設けているほか、SHD 外来、心不全外来、循環器脂質外来、ペースメーカー外来・肺高血圧外来、弁膜症外来、不整脈外来、成人先天性心疾患・移植後外来などの各種循環器疾患分野に応じた専門外来を設けている。

外来スケジュール表

	月	火	水	木	金
午前	初診	初診	初診	初診	初診
	再診	再診	再診	再診	再診
	(4)	(4)	(3)	(4)	(5)
午後	再診	再診	再診	再診	再診
	(5)	(4)	(5)	(5)	(5)
() 診療枠数					

(2) 病棟体制

病棟医長 1 名、病棟主任 5 名、シニアライター 7 名、ジュニアライター 7 名により診療及び研修医の指導を行っている。主病棟は東 9 階であるが、病棟再編により東 3 階病棟、東 8 階病棟も利用している。

病床数：50床 研修医数：2～3名

病棟スケジュール表

	月	火	水	木	金
午前	重症回診 検査 治療	重症回診 検査 治療	重症回診 検査 治療	教授回診	重症 回診 検査 治療
午後	検査 治療	検査 治療	検査 治療	検査 治療	検査 治療
夕方以降	内科外科 合同 カンファ	心移植 検討会 (月1回)	多職種合 同カンフ ァ 抄読会	病理 カンファ (不定期)	

(3) 医療設備

心臓カテーテル検査（放射線部）について、2機のシネアンジオ装置を用い、月曜から金曜まで右心カテーテル検査、左心カテーテル検査、心筋生検、冠動脈造影検査、経皮的冠動脈形成術等を行っており、予定症例のみならず、必要に応じ緊急症例にも対応している。うち1機は世界で2台目となるアンジオCT装置が導入され、冠動脈慢性完全閉塞病変（CTO）治療において、リアルタイムでのワイヤー位置確認が可能になり難治症例の加療に用いられている。

心臓超音波検査（超音波検査センター、東9階病棟）については、ハイエンド装置を駆使することにより精度の高い検査を行っている。特に、拡張機能検査に力を入れている。経胸壁心エコーは毎日、午前・午後に行っており、経食道心エコー検査（予定検査としては木曜日午後）も随時行っている。また、血管内エコー検査については、心臓カテーテル検査中に冠インターベンションを行う患者、心臓移植後の患者において、冠動脈の狭窄病変の詳細な観察を目的に行っている。また、マルチスライスCTを駆使した冠動脈病変評価を積極的に取り入れており、PCIにおけるCT画像診断の活用については先駆的立場にある。

4. 診療実績

(1) 外来診療実績

平成30年度外来患者数は28,691人であった。

冠動脈疾患（心筋梗塞、狭心症など）、肥大型心筋症、拡張型心筋症、心臓弁膜症、心不全、先天性心疾患、不整脈、高血圧症、高脂血症などのあらゆる循環器疾患を診療している。また、高脂血症、低HDLコレステロール血症、糖尿病、高血圧などの冠危険因子の管理と、その基盤となる内臓脂肪蓄積にも焦点をあてた治療も行っている。肥大型心筋症においては、薬物治療のみならず、カテーテルを用いた心筋焼灼術

（PTSMA）も行っており、拡張型心筋症や心不全例においては、積極的にβ遮断薬を導入し、慎重なフォローを心がけている。また、高血圧症に伴う心病変として、左室収縮機能の低下がみられない心不全が注目されているが、本病態の評価法・治療法の確立にも力点を置いている。更にハートセンター開設以来、地域医療の中心的存在として病診連携の強化にも力を注いでおり、平成23年度7月より初診外来と専門外来を開設し、内容を充実させている。

(2) 入院診療実績：循環器内科の病床数は約50床

年間延べ入院患者数	17,068名
平均在院日数	14.7日
平均病床稼働率	92.8%

(3) 各種検査実績：年間の検査件数

負荷心電図検査	2401件
心臓超音波検査	8064件
ホルター心電図	781件
冠動脈造影検査（PCI含まない）	422件
冠動脈形成術	203件
カテーテルアブレーション	167件
デバイス植え込み	121件
先天性心疾患の診断カテーテル	231件
核医学検査	710件
心臓リハビリテーション	5724件

(4) 先進医療、臨床研究など

日本医療開発研究機構（AMED）が主導する臨床ゲノム医療データベース事業や、未診断疾患の原因究明プロジェクト（IRUD）に、循環器主要拠点施設として参画している。また、AMED再生医療実現化事業として「重症家族性高コレステロール血症（主としてホモ接合体）に対する同種脂肪組織由来多系統前駆細胞移植療法の安全性の検討」を行っている。

5. その他

内科学会認定内科医	76名
内科学会認定内科専門医	21名
循環器学会専門医	54名
日本超音波学会指導医	2名
日本インターベンション学会認定医	19名

施設認定：

日本内科学会教育病院
日本循環器学会研修施設
超音波専門医研修施設
日本心血管インターベンション治療学会研修施設